



## 「停電から学ぶこと」

校長 相川 保 敏

1月16日（火）の午前8時ごろ、学校内が急に暗くなりました。ブレーカーが落ちたのかと思いましたが、出勤してきた職員から覚王山交差点の信号機も一時的に消えていたとの報告を受け、停電であることがわかりました。すぐに復旧するだろうと思っていましたが、10分過ぎても復旧しません。時間がたつにつれて、

- ・ 欠席連絡のメールが見られない
- ・ 見守りシステムが機能しない
- ・ 電話を受け取ったり、かけたりできない
- ・ 手洗いの水が流れない
- ・ 教室が暗がりになっている
- ・ 校内放送ができない など

と、次々に問題が出てきました。中電からの停電情報を確認しても、復旧見込みは未定、原因も不明のままでした。このまま停電が続いたら授業はできません。臨時休校にするのか、給食はどうするのか、午後からの保護者会は…など、対応すべき課題がどんどん増えていきます。こうした中で、一番問題になったのが「トイレ」です。児童用トイレはボタンを押して流すタイプなので、停電により水を流すことができなくなってしまいました。登校時間と重なり、用を足したい児童があふれてきます。男性教員はバケツに水をくみ、女性教員がトイレの管理をしてバケツの水を流すこととしましたが、トイレは長蛇の列になりました。

復旧したのは、9時12分ごろです。校舎中から子どもたちの歓声が上がりました。ほんの1時間余りの出来事でしたが、問題が次々に起こり学校の教育活動が完全に停止してしまうことがわかりました。停電に対応できる対策を練っていく必要性を強く感じました。

子どもたちからはこの停電体験から、「石川県で地震にあった人たちはもっと怖くて、もっと大変だろうな」という声もあがりました。身近に起こった停電から、多くのことを学ぶことができました。

1月中旬に、大谷翔平選手が全国の小学校に寄贈した野球のグローブが本校にも届きました。ご存じの方も多と思いますが、昨年11月に日本国内の全小学校約2万校に3つずつ、約6万個の子ども用のグローブを寄贈すると報道されたものです。2万校の中には特別支援学校も含まれており、障害のある子どもない子どもも平等に野球を楽しんでほしいという願い、人権意識の高さを感じます。また、実際に届いたグローブは、右利き用2つ、左利き用1つで、右利き用はサイズが異なる高学年用と低学年用になっています。どんな子どもでもグローブをはめて、キャッチボールができるように細かな点まで配慮されていました。

1月15日の朝会で子どもたちに紹介しました。その際、グローブを付けたことがある子と付けたことがない子を確認すると、半数以上の子どもたちがこれまでグローブをはめたことがないということがわかりました。実際にグローブをはめられるように、保健室横に展示してあります。興味・関心を持ってくれることを期待しています。保護者の方も学校にお見えの際は、ぜひ触れてみてください。



2月の生活のめあては「ふり返って考えよう」です。1年間を振り返る目標ですが、今回の停電のように身近に起こった出来事を再度振り返ることで、新たな学びや発見が得られることもあります。ご家庭でも、印象に残った出来事を家族で振り返ってみられてはいかがでしょうか。